

2012大会プレイバック

<マスタース甲子園2012・第9回大会>

2012～2013シリーズ開幕

第9回大会では、各地方予選大会で代表権を得た、高岡商業(富山代表)、川越(埼玉代表)、県立広島工業(広島代表)、神戸国際大学附属(兵庫代表)、新居浜東(愛媛代表)、奈良情報商業-桜井商業(奈良代表)、明野(三重代表)、鳴門(徳島代表)、八代東(熊本代表)、立川(東京代表)、甲陵(鹿児島代表)、境(鳥取代表)、日本大学東北(福島代表)、天王寺(大阪代表)、神奈川選抜(神奈川代表)、伝習館(福岡代表)の計16チームが出場しました。このうち、新居浜東、奈良情報商業-桜井商業、立川、甲陵の4チームは、現役高校野球部も甲子園未出場であり、高校創設以来、意願の甲子園初出場となりました。

代表OB試合16チームに計767人の選手がベンチ登録、このうち高校時代での甲子園未出場者は665人(約9割)でした。最年少は18歳、最高齢は天王寺高校野球部の投手コーチをつとめる藤原昌男氏が76歳で出場しました。

今年初めて地方予選大会が開催された奈良県では、創設50周年となる節目の年に初優勝した奈良情報商業-桜井商業OBチームに、同校OBの駒田徳広氏(50歳・元巨人・横浜)が出場。甲子園本大会の開会式では選手宣誓を務め、高校時代の恩師と甲子園キャッチボールにも参加しました。また、元プロ野球選手も駒田氏含む6名がベンチ登録。各出場チームの卒業生も応援に参加し、埼玉県代表の川越OBチーム、神奈川選抜の鶴見工業OBからは、同校ブラスバンド部・応援部のOB・OGが集結、甲子園球場のスタンドでも高校同窓会が実現しました。

甲子園キャッチボールには、32都道府県より計243ペアが登録。元高校硬式野球部関係者(部員、監督、部長、コーチ、マネージャー)であれば、チームメイト同士や他校の元選手、兄弟等で参加できる「球友編」に34ペア、片方が元高校硬式野球部関係者であれば親子で出場できる「親子編」に最年少1歳から最年長86歳までの172ペア、片方が元高校硬式野球部関係者であれば夫婦でキャッチボールできる「夫婦編」に37カップルがエントリーしました。

今大会は2日目があいにくの降雨となり、甲子園キャッチボールは中止となりましたが、代表OB試合は全試合決行し、雨の降況さ中、各チームが熱戦を繰り広げました。式典も担当、今年も高校野球選手権大会の初代学生会者である山内佑利子氏が担当。夏の大会の開会式で入場行進のブラスバンドを担当している市立西宮高校のOGが、当時ブラスバンドを持ってなかった同校のOGと共にブラスバンド先導役を務めました。また、かつて甲子園を夢見た審判員、ボランティア・スタッフもそれぞれの想いを抱きながら甲子園デビューを実現しました。

